

会議報告

International Workshop on Arboviral Diseases of Livestock in East Asia 「家畜のアルボウイルス感染症に関する国際ワークショップ」

IMADA Tadao

研究管理監（九州担当） 今田 忠男

平成21年（2009年）3月17日～18日の2日間にわたって、動物衛生研究所九州支所の近く、鹿児島市の錦江湾沿いに位置する「奄美の里（鹿児島市南栄1丁目8番、<http://www.amaminosato.jp/>）」において、東アジアの近隣国、中国、韓国及び台湾の家畜衛生関連の研究所から節足動物媒介ウイルス（アルボウイルス）研究担当者を招聘し、「家畜のアルボウイルス感染症に関する国際ワークショップ」を農林水産省農林水産技術会議事務局と（独）農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所の共催で開催したので、その概要を報告します。

近年、地球温暖化（特に気温や降雨量の変化）の進行により、病原体を媒介する蚊やヌカカなどの吸血性節足動物の分布域が拡大し、アルボウイルス等による公衆衛生及び家畜衛生学上、重要な感染症の増加が危惧されています。また、媒介節足動物は気流に乗り広範囲に拡散したり、長距離を移動することから通常の感染症とは異なり、国境検疫では防ぐことが出来ないため、その防疫には近隣諸国との協力が不可欠です。

実際に北ヨーロッパ諸国においては、2006年以降、羊や牛のアルボウイルス感染症のひとつで

あるブルータングの流行により、畜産業全体に大きな被害が出ており、経済的、社会的に大きな問題となっておりEU全体での取り組みがなされています。日本を含む東アジア地域においても牛のアルボウイルス感染症の流行頻度が増加傾向にあり、地域における一体的な防除対策を図ることが求められています。

このような状況の下、日本のアルボウイルス研究拠点のひとつである九州支所の所在地、鹿児島に、中国、韓国、台湾及び国内の研究者を招いて国際ワークショップを開催しました。今回のワークショップでは、各国における家畜のアルボウイルス感染症の発生動向や研究の推進状況に関する報告・意見交換を行うとともに、東アジア地域における研究ネットワーク構築の可能性を探ることを開催趣旨としました。

参加者は、動物衛生研究所の村上洋介所長、農林水産技術会議事務局国際研究課の江上智一課長補佐をはじめ、中国（雲南省牧畜医科学研究所2名）、韓国（国立獣医科学検疫院動物病診断センター2名）台湾（行政院農業委員会家畜衛生試験所2名）及び日本（沖縄県家畜衛生試験場、（財）化学及血清療法研究所各1名）の招聘者と動物衛生研究所から話題提供者5名、農林水産省（5名）、都道府県家畜衛生担当者（15名）、独立行政法人研究機関（18名）、生物学的製剤の企業（6名）からの合計57名でした。

国際ワークショップの内容は、プログラムに示したように、家畜のアルボウイルス感染症についての各国の現状の報告や、アルボウイルス研究の最新のトピックならびに、媒介節足動物、ワクチン製造についての講演で構成され、各国からの発表に関してそれぞれ活発な質疑応答が行われました。その日に行わ



れたレセプションにおいても各参加者が積極的に情報交換を行い、会の終わりには奄美の三線と太鼓に合わせて踊りの輪ができるほどの盛会でありました。翌日に行われたパネル討論においては、東アジアでの研究ネットワークの構築の可能性と必要性について議論と理解を深めることができ、討議に参加したパネラーを中心に今後とも情報交換のみならず、積極的に人的交流を継続していくことで合意がなされました。



九州支所でこのような会議を開催することに当初少なからぬ不安がありましたが、多くの方々の理解と協力が得られるとともに、参加者各位から、お互いに近隣諸国の状況が理解でき、非常に有意義であったというご意見をいただき、何とか無事に終了報告をすることができました。今後は、ワークショップで築くことができた顔の見えるヒューマンネットワークを大切に、家畜のアルボウイルス感染症研究の益々の発展に活かしていきたいと考えています。

最後に、この国際ワークショップを開催するに当たり、農林水産省、招聘に快く応じていただいた各国の皆様、並びに国内関係各位の多大なご協力に対し九州支所を代表して感謝を申し上げます。また、九州支所のすべての職員の献身的な貢献なくして、この国際ワークショップの成功は成し得なかったことをここに書き留めておきたいと思えます。

Schedule

March 17, Tuesday

9:00 – 9:30	Registration
	Opening Ceremony
9:30 – 9:50	Yosuke Murakami (National Institute of Animal Health, Japan) Tomochi Egami (Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council, MAFF, Japan)
	<Session I : Report from region or country>
9:50 – 10:30	Monitoring system and epidemiology on arbovirus infections of cattle in Japan Toshiyuki Tsutsui (National Institute of Animal Health, Japan)
10:30 – 11:10	Arbovirus infections of ruminants in PR China Li Huachun (Yunnan Animal Science and Veterinary Institute, China)
11:10 – 11:50	Monitoring of bovine arboviruses in Korea Yeun-Kyung Shin (National Veterinary Research and Quarantine Service, Korea)
11:50 – 13:20	Lunch
13:20 – 14:00	Arbovirus infections in Taiwan Fan Lee (Animal Health Research Institute, Taiwan)
14:00 – 14:40	Bovine arbovirus infections in Okinawa Maki Aizawa (Okinawa Prefectural Institute of Animal Health, Japan)
14:40 – 15:00	Break
	<Session II : Research topics>
15:00 – 16:00	Research on important veterinary arthropod-borne viruses in Japan Makoto Yamakawa (National Institute of Animal Health, Japan)
16:00 – 17:00	Vector study of bovine arboviruses in Japan Tohru Yanase (National Institute of Animal Health, Japan)
17:30 – 20:00	Reception

March 18, Wednesday

	<Session II : Research topics> continued
9:00 – 9:30	Topics of pathological researches on arboviral infections executed in Kyushu Research Station, NIAH Shogo Tanaka (National Institute of Animal Health, Japan)
9:30 – 10:00	Researches on bluetongue in PR China Li Huachun (Yunnan Animal Science and Veterinary Institute, China)
10:00 – 10:30	Serotype identification and phylogenetic analysis of bluetongue viruses isolated in Japan Hiroaki Shirafuji (National Institute of Animal Health, Japan)
10:30 – 11:00	Vaccines against bovine arbovirus infections in Japan Takahiko Kobayashi (THE CEMO-SERO-THERAPEUTIC RESEARCH INSTITUTE, Japan)
11:00 – 11:20	Break
	< Panel discussion >
11:20 – 12:00	Toward the establishment of a research network on arbovirus infection of livestock Proposer: Makoto Yamakawa Chair: Toshiyuki Tsutsui
12:00 – 12:20	Closing Ceremony Tadao Imada (National Institute of Animal Health, Japan)
12:20 – 13:00	Lunch
13:00 –	Field trip (Visit Arbovirus research Lab. in Kyushu Research Station, National Institute of Animal Health)